

## 豊崎プラザ 大阪らしい長屋と路地の再生実験

### 学生による豊崎プラザへの感想

豊崎プラザは、学生の実物教育の現場になっている。5月29日、居住環境学科の1回生45名が豊崎プラザを訪れた。

学生の多くは近代的な住宅に住んでいるにもかかわらず、和風の長屋や路地に心地よさや懐かしさを感じ取っていた。また「素材は昔と共通でも、昔にはないデザイン」「完全に新しいものではなく、昔の良い所を残しつつ発展させることで、これからも伝統ある良いものが残っていくと思う」と、歴史を保全しながら、現代のデザインによって再生された建物に、新しい魅力を発見している。

豊崎プラザは、学生が歴史的な居住環境を実体験し、日本の伝統文化を再認識する上で、大きな教育効果を挙げている。

<< 綱本 琴 (豊崎プラザRA)

梅田に近い都心にあり、大正年間に建設された主屋と長屋建の貸家群、路地が残る一郭です。オーナーと大学が共同して、老朽化した木造住宅の耐震設計、快適な住生活、住宅経営、居住環境の整備を柱に、都市住宅としての長屋の再生モデルを目指し、居住文化の継承や市民の生涯学習なども含めて、創造的なまちづくりを進めています。



現地調査する学生たち

### 長屋改修の完成を祝って 一学長見学とお匙の日

2年間にわたる主屋と長屋の改修工事が4月に完成した。外観は登録文化財にふさわしい伝統様式、内部は現代生活にあわせた装いに一新された。長屋にはもとの居住者が戻り、設計に関わった大阪市立大学の学生が新たに入居した。豊崎プラザ最大のプロジェクトが1つの節目を迎えた。

6月のある日、豊崎プラザの所有者と金児曉嗣学長、都市研究プラザの佐々木所長、長屋改修に関わった生活科学研究科の教員が集い、改修プロジェクトの完成を祝った。みごとに蘇った長屋を見学した学長は、大学の地域貢献による成果を実感した様子だった。

所有者の方から全員に銀の匙のプレゼントがあった。この匙は、亡きご当主が勤め先から贈られたもので、生駒時計店(建物は登録文化財)の特製品である。歴史ある建築の保全を進めるこのプロジェクトにとって、とても意味ある贈り物で、この日を「お匙の日」にしようと盛り上がった。

改修長屋の1軒は研究科の研究室が賃貸し、長屋住まいの体験を行っている。居住者の目線による情報を発信する場として、今後のプロジェクトの中心となっていこう。

■ 綱本 琴(豊崎プラザRA)



生駒時計店作のお匙

### 第4回長屋路地アート

2009年11月21日(土)、豊崎の交流イベント「第4回長屋路地アート」を開催し、豊崎プラザや周辺の住人、大学関係者など約70名が参加した。防火訓練では長屋に住む人たちの防火対策への関心を高めてもらうため、長屋の1軒から出火という想定で、消防署に電話する『通報訓練』や水消火器を放射する『初期消火訓練』を参加者一同で体験した。年配の住人には「消火器の使い方がわかった」と喜ばれた。昭和の暮らし展では、ブリキのおもちゃなどが若い学生の興味をひいた。住人から拝借し、展示した昭和初期～中期の写真は、今では改変・消失した長屋が写る貴重なものであった。長屋では陶芸作家による「3つのうつわ展」が開催される空間で学生がカフェを開き、また豊崎・中崎町の長屋や景観を分析・提案した作品展も行った。今回の目玉となる子供落語には大阪くらしの今昔館の子ども落語大会優勝者の小学1年・3年生の兄弟が名古屋から駆けつけ、大人顔負けの好演に参加者一同大いに笑い、喝采の拍手を送った。



水消火器で消火訓練を行う様子

同日、別の長屋でも、アートイベントや陶芸作品展が催され、豊崎プラザ界限は一日中、華やかな空気に包まれた。

■ 綱本 琴(豊崎プラザ研究補助スタッフ)